

その他

渋谷教育学園渋谷高等学校との連携

姉妹校の渋谷教育学園渋谷高等学校は、本校同様 SGH 指定校であるため、様々な活動で連携して成果の向上に努めた。中でも海外研修は共催で行うことが多く、両校を行き来して事前研修や事後研修を行った。事前研修では、英語学習の他に、現地の文化学習や日本の文化紹介プレゼンテーションの打合せなどにあて、事後研修では、レポートの発表会などを行った。引率教諭も両校から出すことで、安全確保がしやすいという利点があった。

また、Water is Life 2018 では両校で役割を分担し、準備から当日まで約 550 名のボランティアキャストが運営を支えてくれた。前半を渋谷高校、後半を幕張高校を会場として開催したので、基本的にはそれぞれの会場校の生徒が分担して担当したが、連携することで 5 日間がスムーズに進行した。また、校外でのオリエンテーションや水関連施設の見学、校内でのワークショップや日本文化紹介活動では、両校の生徒が協力してガイドや指導を担当した。

保護者の協力

毎年のニュージーランド（約 50 名）、シンガポール（8 名）、中国（8 名）との相互交流や、不定期の他地域・国からの短期留学生来校で、海外生徒が校内で活動することや、ホームステイ受け入れが常態化しているため、SGH 活動期間中も自然にご協力いただくことができた。Water is Life 2018 では両校で 140 名分のホストファミリーが必要であったが、すべて受け入れていただくことができた。SGH 活動を通して、生徒が積極的になっていることを身近で感じていらっしやった結果、保護者の方も協力を積極的にあつたと考えている。

生徒の自主的行動と反省点

SGH 活動を通して各個人が課題を設定し探究するというスタイルは、生徒の自主的活動を促すという利点が顕著であった。調査の段階で外部機関との連絡が必要となれば、該当機関を直接訪問して資料を集めたり、説明を受けたりと行動力を発揮した点は評価できるが、自分の興味が優先し、先方の都合や各種権利に抵触するような場面も見受けられた。高校生ゆえの未熟さと言うこともできるが、本校の提唱する「交渉力」に逆行する行動とも言え、改めて「交渉力」の難しさを考えさせられた。